

# 立教の元一日に思いを致し

## 10月26日 立教182年秋季大祭



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
FAX (052) 461-4320  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広 報 部

天保9年10月26日は、教祖が「月日のやしろ」と定まられて、陽気ぐらしへの道が始まった立教の元一日。今年も10月26日には、おぢばで秋季大祭が執行される。

立教の元一日の思召を心に刻み直し、教祖がひながたを通してお遺しくだされた「たすけ一条の道」を歩むことを、あらためてお誓い申し上げたい。

毎年10月26日に勤められる秋の大祭は、教祖が月日のやしろとお定まりくだされ、親神様が初めてこの世の表にお現われになった、

### 立教 182 年 活動目標

- 「報恩」の実行
- 初参拝の推進と新ようぼくの丹精
- 報恩感謝のおつくしの徹底
- 若者にご恩報じの心を伝えよう
- ◎一名称が本年まで三人の修養科生を守護頂う
- ◎報恩感謝別席団参の実施(11月24日)

天保9年10月26日を記念して勤められている。世界一れつをたすけるために、教祖は親神様の思召を数々お説きくだされ、ま

た身をもつてお示しくだされた。立教に縁あるこの日に、ぜひともおぢばへ帰らせていただき、立教の趣旨と親神様の思召、そして教祖のご苦労とひながたを忘れることなく、この道の発展に尽くすことをお誓いさせていただきたい。

現在、大教会をはじめ、各教会でも、秋季大祭に向けた団参募集が精力的に行われている。大祭翌日、27日には「天理教青年会第95回総会」も開催される。ぜひ

ひともし若い方にも声をかけ、一人でも多くの方をおぢばにお連れさせたい。けるよう努めたい。

11月24日には本年2回目となる「報恩感謝別席団参」が行われる。続けての団参ではあるが、どちらかで帰参してもらおうではなく、どちらにも参加していただけるよう、働きかけていきたい。

11月24日に向けて、大教会を拠点に今月14日から20日まで「本愛布教推進週間」が実施される。それぞれの土地所でも、9月のにいがけ強調月の勢いをそのままに、団参募集に力を注がせていただく。

## 報恩感謝別席団参

11月24日(日)  
おつとめ 正午 於・東礼拝場

### 本愛布教推進週間

10月14日～20日  
午後1時 大教会

10月のこよみ	
入社祭	1日 午前10時
祭典後、教会長連絡会	2日 午前10時
よふき会例会	2日 午前10時
こはる会例会	12日 午前10時
秋季大祭	13日 午前10時
青年会例会	13日 午前4時
女子青年例会	13日 午前4時
布教実修所	14日 午前9時30分
本愛布教推進週間	14～20日 午後1時
委員長後継者講習会	16日 午前10時
婦人会例会	20日 午前10時
本愛ようぼく錬成会	24日 午前10時30分
秋季大祭総会団参	25日～26日(近鉄電車)
本部秋季大祭	26日 午前8時
第95回天理教青年会総会	27日 午前10時
雅楽勉強会	30日 午前10時

インタビュー

女子青年大会へ向かって

本愛支部長に聞く

11月3日、本部中庭において第29回「女子青年大会」が開催される。常時の活動の集大成である同大会へ向けての思いを、安藤くみ子・本愛支部長と、女子青年総務に聞いた。



女子青年大会は、これから輝いていく女子青年会員の皆さんの常時の活動の集大成となるものです。

単に参加すればよいというものではなく、日々のような心で御用に当たるか、ということが最も大切なことなのです。

けれども、あえて「大会」として多くの方の参加を呼びかけているのは、この日に向けて、これまでの大会で頂戴してきた真柱様

のお言葉をあらためて読み返し、心に治めて通る機会とするためです。

昭和32年に第1回が開催された女子青年大会は、これまで3回、真柱様からお言葉を頂戴しました。読み返してみると、女子青年活動について本当に分かりやすく、丁寧にお話しくだ

されています。いま、全国の女子青年の皆さんには、常時の活動の「課題」として、「教えを身につけよう」「親の思いを求めよう」の二つに取り組みんでもらっています。親の思いを求めつつ、これまでの自分を振り返り、できることから実行してもらえ

ばと思っています。

「仲間」をつくる場所

振り返ってみると、私自身、20代の頃に女子青年としてひのきしんをさせてもらいましたが、若い頃でしたから「なんでこんなこと」と思ったこともありました。けれども、そのとき一緒にひのきしんをしていた友人たちは、いまでもいろいろな話ができる大切な仲間なんですね。

女子青年活動の魅力の一つは、そうした仲間をつくることができることにもあります。将来何か大きな壁にぶつかったときにも、相談できるお道の仲間がいるというのは、人生の貴重な財産。その意味では、「道の後継者の集い」でも、大教会につながる仲間を男女問わずつくってもらえたらなどと思いますし、大教会のセンター室当番にも積極的に参加してもらいたいと思

います。

育成する側の矜持

翻つて、私たち育成する側にも大きな責任があります。全国の女子青年の委員長さんたちを対象におぢばで開催される「委員長講習会」では、婦人会長様がどんなに忙しい中でも時間をつくって講話をしてくださるんです。それも、単なる挨拶ではなく、懇切丁寧に、説いて聞かせるようにしてお言葉を下さいます。それは決して「若いからこの辺

にしておこう」という姿勢ではなく、私たち委員長を相手にすると全く変わらない態度で、常に真剣に務めてくださるんです。若い人にお道の教えを伝える、というのは、エネルギーを使うことでもありません。世代も違う、考え方や価値観も違う中で、こちらの考えを伝えるということ、時には鬱陶しがられた

り、嫌われたりすることもあつたでしょう。私自身も大変なことだなどいつも感じます。けれども婦人会長様のそうしたお姿に、育成に当たる者の矜持といえますか、もつと真剣に、覚悟を持って臨む姿勢が大切だと気付かされました。

先に申したように、女子青年大会は目標ではありません。日々の活動の集大成であり、そこに向かってどのような暮らし方をするのか、通り方をするのかというのを聞いてほしいのです。

会員層の皆さんには、ぜひ積極的に教えを求めつつ、素直な心で御用に、あるいはそれぞれの家庭で務めてもらいたいと思つています。そして、そうした姿を、私たち育成する側もきちんと見つめて、真剣に向き合っていながら、育て導いていかなければならないと思つています。

座談会

絶対に楽しんでもらえる大会に

女子青年総務に聞く

◇大会に向けてどういったことを心掛けていますか。

石井雅・委員長 いま、本愛の女子青年委員では、これまでの女子青年大会での真柱様のお言葉を讀ませてもらっています。

お言葉の中で真柱様は、女子青年の門目の実行と女性の徳分について常に仰っていました。このことを自分も意識しだしたのは遅かったかもしれないですが、をやる思いに沿って、



先を楽しみに御用をさせてもらうことが大切ということ、大会をきつかけにみんなに伝えられたらと思います。

大会には参加人数110名を目標にしています。ぜひ、大勢の会員さんとおぢばに帰らせていただきたいと思っています。

上野笑・副委員長 大教会や自教会で参拝をする時には、御礼やお詫びだけでなく、大会へ大勢の会員さんと帰参できるようお願いをさせてもらってます。また、起きてくることはすべて神様からのメッセージなので、不足をせずに喜んで通らせていただいています。

中島結・副委員長 大会までとかではないのですが、いつでも前向きに、明るく元気に御用を勤めさせていただきます。

◇常時の活動についてはどのような思いですか。

和光真由・副委員長 私は委員になったときは、仕事をしていたので、あまり女子青年活動には参加できませんでした。しかしその後、大教会の住み込み女子青年をさせてもらい、その中で、いかにこの活動が大事なことを学ばせてもらいました。

悩みがあるときでも、女子青年の集まりの中で、心が救われたこともたくさんあります。それを若い委員の子たちにも伝えていきたいし、この大会が参加してくれた会員さんの印象に残るものになってほしいです。

澁谷昌美・副委員長 私も、精神的にしんどい時やつらい時、大教会に来てみんなと話することで心が楽になったことが何度もありますし、他の委員の子も自分

のつらかったことを話してくれたりします。大会もそうですけど、女子青年の集まりでそういう場をつくらたいいなと思います。

◇会員の皆さんへひと言

石井 会員さんからしたら、行事に参加するためには、大教会へ足を運ぶのは、と

ても勇気のいることだと思います。だけど、この女子青年の活動の中で、友達とは違う一生の心の支えになる繋がりを持ってほしいと思います。

絶対に楽しんでもらえる大会にしたいと思っておりますので、大勢のご参加をお待ちしております。

◆◆◆◆◆◆◆◆ 第 29 回女子青年大会 ◆◆◆◆◆◆◆◆

— 本愛女子青年 参加要項 —

- 日 時：11月2・3日 (土・日)
- 集 合：2日午後1時30分 大教会集合  
午後2時30分 出発  
※午後7時に2便目が出発します
- 解 散：3日午後5時頃 (交通状況で変動します)
- 参加御供：2,000円 (理立、交通費、宿泊費、食費含)  
当日参加は500円
- 内 容：2日  
夕づとめ後【よろこびフェスティバル】に参加  
3日  
10:00 大会式典  
12:00 支部の集い、会食、お楽しみ行事

※不明な点は、本愛女子青年までお尋ねください

教理随想

言わん言えんの理を探る



この天の理を知り、天の理に沿って生きていくところに幸せを味わう道があると教えられています。

教祖がお教えくださった天の理、天の法則は、この世と人間のありとあらゆる場面に、また人生に適用され、おさしづで一つ一つていねいに教えられています

天理教とは、文字通り「天の理の教え」であります。では「天の理」とはなんでしょうか。それは遠い昔に、親神様がこの世と人間を創造された時から今に続く「天の法則」であり、人間は

が、その中にこういうご神言があります。立てば立つ、倒かせば倒ける。これ一つ天の理と云う。この理を心得ば何一つの難も無いという。

(明治25年2月20日)

立てるべきものを立てる。その理によって自分が立つことができる、という意味です。

たとえていうと、昔は学校の先生といえば「三尺下がって師の影を踏まず」といわれるほど尊敬されてきました。しかし平成から令和に至る昨今はどうでしょうか。先生が生徒の暴力に怯える。先生が話しているも、子供たちが勝手に騒いでいて授業が進まない。昔では考えられなかったこんな光景があちこちで現実に見られ、しかも混乱する学校の内外では暴力やいじめが広がっているのです。

学校ばかりではありません。家庭でお父さんといえ、昔は大黒柱として一家の中心的役割を果たしていました。ところが現代ではどうでしょうか。ある調査によると「一生懸命に働いても家に帰ると居場所がない」とか、「家に帰っても妻や子供が話をしてくれない」など、何とも情けない愚痴をこぼすお父さんが増えているらしいのです。

また会社では社長や上司が、いわば働くグループの中心です。ですから立てるべき人を立てる中に、どの組織もどの部門も丸く治

まって、明るく活発な活動が生まれ、業績も伸びていくのであります。

■自分の「我」を捨てる

社会全体が平等を強調しすぎるあまり、大切なもの立てるべきものを失くしてしまつた。そういう風潮が広まっているような気がしてなりません。何も学校の先生や世のお父さんの肩を持つ訳ではありませんが、広い宇宙を見渡せば、太陽の周りを地球が回り、地球の周りを月が回っています。またマイクロの世界では、原子核の周りを電子が回る。この世に存在するものは、すべて中心があることで調和が保たれ、そのおかげで人間が生かされているという事実。つまりすべてのものには必ず中心があり、中心があるからこそ、独楽が軸を中心にして回転するよう、家庭や組織や社会が治まるのです。この厳然た

る天の法則を忘れたり疎かにしてはなりません。自分の我、人間思案を捨てて理を立てる。自分の都合を捨てて、親や上司など目上の人を立てて都合を合わせる。それは時に窮屈で、バカバカしく感じる時もあるかもしれませんが、また自分という存在が無くなってしまうのではないかと錯覚する場合もあるでしょう。しかし結果はまつたく逆であります。理を立てる人は、不思議と多くの仲間の信頼を得て、自分の身が立つようになる。反対に倒かせば不思議と自分が倒れる。これがおさしづで教えられる天の理であります。

とかく目先の損得や自分の人間思案からくる感情に流されがちなお互いですが、何が大切かをよく考え、「立てば立つ、倒かせば倒ける」、このお言葉を胸に天の理に沿った日々を歩んでいきたいものであります。

【第58回】

立てば立つ、倒かせば倒ける  
これ一つ天の理という

# 道の後継者の集い 開催

## 仲間たちと語り合い、信仰深める

9月22日、大教会では「道の後継者の集い」が開催された。大教会につながる若年層の男女や一般参拝者、各会のひのきしん者など210名が参集した。

「道の後継者の集い」は昨年初めて開催された行事で、今年で2回目の開催となった。対象は大教会につながる16〜40歳の男女で、例年行われている青年会総会と女子青年の総会も兼ねて実施された。

秋の涼しさを感じられる日和となった当日、午前10

時の開催に合わせ集まった受講者たちは、同年代ごとの班に振り分けられた。

はじめに、中山大亮・青年会長のご告辞を大教会長

が代読した。大亮様は告辞の中で青年会の未来のビジョンとして、「10年後、日本を含む世界のいたる所でその国や地域の社会問題の解決に力を注ぎ、そこで動くあらかじょうりよう一人ひとりが教祖の教えを伝え、人の心を救っている」という姿を示され、そのビジョンに向かって青年の奮

### 大教会

#### 秋季霊祭を執行

大教会では9月1日、入社祭に引き続いて秋季霊祭が執行された。

開扉・献饌に引き続いて、

祭主の大教会長が厳かに祭文を奏上。その後、親族役員、部内教会長やようぼく・信者らが祖霊殿において順次参拝し、歴代会長をはじめ、先人の遺徳を偲んだ。



起を促された。

続いて、大教会長が挨拶に立ち、その後は記念講演が行われた。講師は人材育成コンサルタントで、教会本部ようぼくの吉川孝之氏。「お道の教えこそ、社

会で活躍するための原理原則」と題して登壇した(次号に要旨)。

引き続き、「ランチミーティング」が行われ、昼食やデザートを食べながら、講話についての感想を気軽な雰囲気です話し合い、それぞれの決意を発表した。その後は、班対抗のアトラクションを楽しみ、引き続き、安藤吉人・青年会本愛分会委員長が挨拶に立ち、最後に誓いを込めて、座りづつめを勤めた後、記念撮影を行い、解散した。

### 世界で活躍「7本指のピアニスト」西川悟平氏

#### 大教会でコンサートを開催

「7本指のピアニスト」として国際的に活躍する西川悟平氏のピアノコンサートが9月16日、大教会華洲館3階で行われた。近隣住民など70名以上が集まった。聴衆は力強く美しい音色に聴き入り、西川氏の関西弁の軽妙なトークも楽しんで。

西川氏は、若手ピアニストとして活躍していた18年前に中枢神経系の病気で両手が麻痺。その後は懸命なリハビリで、右手の五指と左手の親指、人さし指が奇跡的に回復し活動を再開した。

### ハイタイム

先月の台風15号は、関東を中心に大きな被害をもたらした。地震や台風などの自然災害に対する不安は、

近年大きく高まってきている。それ以外にも、相次ぐ事件や事故、不透明な国際情勢、老後の資金や消費増税など、不安の種には事欠かない▼物事を悲観的に見る人に比べ、楽観的に捉える人の寿命は1〜2割も長いのだそうだ。もちろん悲観的に物事を捉えて周到に準備を整える人が有利なこともあるだろう。しかし楽観的な見方が人生にもたらしてくれる心身の健康の方が魅力的に映る▼ありがたいことに、私たちは楽観的に生きるための方法を知っている。何事が起きても神様に凭れて、明るく勇んだ心で日々を通ること。あとは教えられた事を実践できるかどうか、である。

本桑名分教会二代会長  
山本正雄之霊の五十年祭  
同分教会三代会長  
山本まよ子之霊の三十年祭  
本桑名分教会では9月15  
日午前11時より、二代会  
長・山本正雄之霊の五十年

8月の初席者  
本 晃 林 幸多郎  
名 愛 大石 知江  
" " 大石 妃奈乃  
本 清明 鈴木 舞里香  
" " 島田 麻凜  
本 西部 森田 千香子  
以上6名

8月の中席者数  
(9月20日提出分まで)  
本 心 1 本道橋 1  
以上2名

8月のおさづけの理拝戴者  
本 穂(本正順) 糸見 有菜  
本海部(本海門) 高橋 美和  
以上2名

祭、並びに三代会長・山本まよ子之霊の三十年祭が、大教会長を祭主として同分教会で行われた。

## 大教会日誌

令和元年8月25日～令和元年9月24日

### 8月

- 25日 雅楽勉強会
- 26日 本部月次祭
- 28日 ほんあいOKEIKO
- 31日 常任役員会議◇役員会議

- 祭主・大教会長 扨者・松原友治、中島功雄
- 指図方・出口道男 賛者・津田豊郎、杉下和平
- ◇祭典講話—野田正道
- ◇大教会長挨拶

### 9月

- 1日 入社祭  
祭主・大教会長 扨者・吉田正信、大倉光晴  
指図方・板山公司 賛者・伊藤寿輝、野田正樹  
秋季霊祭  
祭主・大教会長 扨者・出口道男、安藤正二郎  
指図方・板山公司 賛者・長尾 誠、松原 悟  
◇おたすけ講話—山本正太郎  
◇教会長連絡会
- 2日 よふき会例会  
おつとめ・十二下りてをどり、にをいがけ
- 12日 常任役員会議
- 13日 月次祭

- 14日 布教実修所  
おつとめ、布教実動、ふり返り  
おはなし会  
雅楽クラブ慰問演奏
- 15日 少年会 本愛こども会
- 16日 西川悟平ファミリーコンサート  
参加人数 71名
- 17日 こども食堂MOGU (参加者 45人)
- 20日 婦人会例会
- 21日 女子青年 こかん様に続く会 (22日まで)
- 22日 道の後継者の集い  
記念講演—吉川孝之氏
- 24日 本愛ようばく錬成会  
おつとめ、にをいがけ、ふり返り